

千葉経大新聞

第38号
発行
千葉経済大学
千葉市稲毛区轟町
3-59-5 (〒263-0021)
TEL.043(253)9111(代)
FAX.043(254)6600
http://www.kcu.ac.jp

経済学と

エコノミーとどう言葉

学長 小浦 敏之



二十世紀英米哲学界の最高峰と目された哲学者で数学者でもあったアルフレッド・ノース・ホワイトヘッドは「哲学とは、宇宙の無限を言葉の有限な概念で言い表す試みである」と述べている。このホワイトヘッドの言葉を借りれば、社会科学は言葉の有限な概念で人間社会の無限の営みを言い表そうとする試みであるといつてよいが、今日、社会科学の女王ともてはやされるようになった経済学は、果たして人間社会の営みをどれほど言い表すことに成功しているであろうか。その答えはここでは留保せざるをえないが、経済学の研究対象とする「経済」や「エコノミー」という言葉は、かつて今日とはかなり異なった意味合いで用いられていたことを知っておくのも無益ではなからう。

「経済学」という言葉は、今からちょうど百四十年前の慶応三年（一八六七）三月に出された神田孝平の訳書『経済小学』に始まると見られる。同書はウィリアム・エリスの『ポリティカル・エコノミー』のオランダ語訳版から重訳されたものだが、明治初年当時はこのエリスの書よりもウェイランドの『ポリティカル・エコノミー』の方が良く読まれていたようであり、その冒頭に「ポリティカル・エコノミーは富（ウェルス）の科学である」という定義がなされていたこともあって「富学」という言葉を用いる学者もあった。公式の記録では、明治三年（一八七〇年）二

月の「大学規則」及び同年閏十月の「大学南校規則」で「利用厚生学」という名称が用いられているほか、明治十四年（一八八一年）の「東京大学規則」では「理財学」という名称に改められた。「理財」とは古代中国の経書『易経』にある「理財正辭（財を理（おさ）め、辭を正す）」に由来する言葉だが、「理財学」より神田孝平訳以来「経済学」という言葉の方が慣用語として広く流布していったこともあり、明治二十六年（一八九三年）九月の帝国大学法科大学の学科改正時から講座名として「経済学」という名称が正式に用いられるようになったのである。

その「経済学」が研究対象とする「経済」という言葉は、古代中国の「経国済民（国を経（おさ）め民を済（すく）う）」や「経世済民（世を經め民を済う）」から出たもので、むしろ「政治」や「行政」に近い意味合いの言葉であった点に注意しておく必要がある。江戸中期の儒学者・大宰春台（だざいしゅんたい）の『経済録』（一七一九年）にも「経済」という言葉が現れているが経国済民論であり、今日使われるような「経済」や「エコノミー」（富の社会的再生産過程）という意味はなかった。周知のとおり「エコノミー」という言葉自体、元来そのような意味を持っていたわけ

ではない。語源をたどれば明らかのように英語の「エコノミー（economy）」やフランス語の「エコノミ（economie）」は、ラテン語の「エコノミア（oeconomia）」に、更には古代ギリシア語の「オイクonomia（oikonomia）」に遡るが、これは「家」を意味する「オイクス（oikos）」と「営為」や「法」を意味する「ノモス（nomos）」の合成語である。「オイクノモス」に由来する言葉で、もともと「家の営み」すなわち「家計」を意味しており、東洋の「経国済民」や「経世済民」から来た「経済」とは意味合いを異にしていたわけである。したがって、近代の学者がわざわざ「ポリティカル」という修飾語を付して「ポリティカル・エコノミー」と称したゆえんも、単に家計にとどまらず国政的・国民経済的な財の生産や消費、資源の配分や所得の分配などを含めた観念を言い表す狙いであったことが理解されようし、これを「経済学」と翻訳した幕末の先覚の偉大さも理解されよう。今では「ポリティカル」という形容詞を付さず「エコノミク」という単語が用いられるが、この言葉に限らず一般的に言葉や概念というものは、時代とともにその意味や用法が大きく変化するものであることに留意する必要がある。

現代にも生きる『論語』

経済学部長・経済学科長 鈴木 信雄



社会に出るための最後の準備期間である大学では、社会人として世に出ることを意識しながら、学生生活を送る必要があります。大学は、小学校以来の教育課程の最後の仕上げの場であると同時に、謂わば、「ちゃんとした大人」になるための「社会人基礎力」を養

成する場でもあります。わたくし自身「ちゃんとした大人」であるかどうか甚だ心許ないのではあります。そうありたいと心がけています。しかし、立派ではなくとも「ちゃんとした大人」であるためには、単に学力が優秀であったり、商売が上手であるだけでは充分ではありません。では「ちゃんとした大人」とはどんな存在であるべきなのでしょう。このことは古くから賢人・哲人と呼ばれていた人々によって問題とされてきたところのものです。たとえば、最近の、仏教・仏教史研究の第一人者である末木文美士

氏は、紀元前五〜六世紀の仏教の開祖ブッダの言葉（原始仏教）というものは、「ちゃんとした大人」になるための術が説かれたものであると述べておられます。また、千葉経済大学の経営母体である千葉経済学園は、近代日本資本主義の生みの親であり、また産業・経済界の父であり、大蔵省、第一国立銀行の初代頭取などを経て、日本の産業の近代化に力を尽くし、発展に貢献した渋沢栄一翁の言葉である「論語と算盤」を建学の精神として受け継いでいますが、本学の建学の精神のひとつである『論語』も「ちゃんとした大人」

とは何か、あるいは「ちゃんとした大人」になるための要件とは何かを語られたものです。孔子を中心とした言行録である『論語』は、孔子の没後（B・C四七九）、その門人たちによって長い間をかけて整理され、紀元前二世紀、漢の初めのころ集大成され、編纂されたものであるといわれています。黄河流域から南方へ子貢や顔回（顔淵）などを伴って十四年にも亘って流浪する孔子の姿は、弟子を伴いガリラヤ湖畔を放浪するイエスの姿を彷彿させるものがありますが、確かに古い話です。何を今更『論語』なのかという気もしないわけでもありません。しかし、実際に読んでみま

と、その内容は、現代でも、決して色褪せたものではありません。「ちゃんとした大人」とは何か、子貢や顔回などといった弟子たちとの問答のなかで迫力をもって語られており、常にわたくしたちの

「教職課程がスタートします」

平成十八年度 教職課程作業委員会

委員長 藤森 友明



この四月より、高等学校の公民科（現代社会・倫理・政治経済）の教員免許状を取得することを可能にする教職課程がスタートします。千葉経済学園の教員養成課程が、幼稚園教諭・小学校教諭だけでなく高等学校教諭も加わる画期的なことです。関係各位のご協力に感謝するとともに、さらなる発展の基礎となることを願うものです。

この課程は、千葉経済大学に今春入学した学生から選択することができます。高等学校の先生を目指す人はこの課程を選択する必要があります。公民科もその一つです。千葉経済大学においては、経済学・経営学・社会学、哲学、倫理学等の科目を幅広く学習できるようにカリキュラムが組まれています。

卒業までに免許を取得できた人が高等学校の教員になろうとする場合、都道府県や市町村の実施する教員採用試験に合格する必要があります。私立の高等学校教員になろうとする場合はそれぞれの私立学校が実施する採用試験に合格する必要があります。

その理由の一つは、一般大学の専門学部の方が教員養成に適している教科があることです。公民科においては、経済学・経営学・社会学、哲学、倫理学等の科目を幅広く学習できるようにカリキュラムが組まれています。

具体的によれば教員免許を取得できるのでしょうか。一年次で、教職概説・教育原理・教育史・教育心理学の内、全部あるいは一部を履修するところからスタートします。一年間勉強してみ、本格的に教員免許を取得したいと決意したときは正式に教職

の立場に立ってものを考えることが大切であるということです。これは経済学の父アダム・スミスの考え方と同じものです。一八世紀のフランスの哲学者であるデイドロヤルソーも述べているように、人間には誰しも、「ちゃんとした大人」になるための能力が備わっており、是非、学生の皆さんが学舎を巣立っていきけるよう全力を尽くして支援をいたします。





経済学科 教授 菅根 幸裕

このたび、博物館学芸員課程科目及び民族文化論を担当させていた...



経済学科 教授 横山百合子

はじめまして。経済史は、数値分析に加え、数値の陰にかいま見...



経済学科 准教授 東 三鈴

皆さん、はじめまして。皆さんとは主に授業を通して接することになります...



経済学科 准教授 片岡 光彦

この度、本校に着任いたしました片岡光彦と申します。これまでシンクタンクの...



経済学科 講師 黒川 太

この四月より本学において勤務することになりました。これまでには研究センターで...



経営学科 特任教授 太田 元

仕事の関係で三十七年間経済界の立場から、また、ワシントン・ロンドン駐在として...

新任教員所感



平成19年度 入学式



経済学部一年 篠塚 知啓



私は将来、高校の社会科の教師になり、野球部の監督になりたいと考えています。

本学で入学して



経済学部一年 西村 麻利

近年、中国やインドなどアジアの国々は目覚ましい経済の発展で世界から注目されています。

大学生活を一年間振り返って

平成19年度 特待生 経営学科2年 坂尾 砂織



私はこの一年間本学で充実した大学生活を送りました。一年次ということもあり...

いろいろありますが、大学は自由な面も多くありますが、その自分自身で考えて行動するというのが大切...

学内企業説明会が 開催されました

平成十八年度の学内企業説明会が、二月十三日(火)、十四日(水)に学生ホール(エステリア)で短期大学部と合同で開催されました。参加企業数は八十九社(前年度より二社増)で本学学生の採用実績のある企業の人事担当者様に参加下さいました。二日間の参加学生数は、大学生が百三十二名(前年度より百十二名減)、短大生は二百六十五名(前年度より六十九名増)の合計三百九十七名(前年度より四十三名減)になりましたが、参加企業の人事担当者様からは「男子大学生の数が期待したより少なかったのが残念」とのアンケートを頂きました。これは、二日目の大荒れの天候と幕張メッセで開催された合同企業説明会(就職サイト会社主催)と日が重なったことも影響しているとは思いますが、大学三年次生の二〇三が就職に意識が向いていないこと懸念材料を提供してくれました。事前の開催通知を充分に行いましたが、日本経済の劇的な復活による企業の好業績と団塊の世代の大量定年退職による人手不足を懸念して企業が新卒学生の採用増を積極的に実施する方針を打ち出し、売り手市場の方向に進んだことで学生側に余裕が出ていることも否めません。参加企業その他のアンケートを紹介すると、「しっかりと話を聞いていて、とても良かった」、「業界研究の要望があれば説明に参上します」から、「二つくらいの企業説明があると良い」、「二階にもっと学生が上がる工夫がほしい」など貴重な意見も頂戴しています。人気のある企業に学生が集まる傾向が見られたのですが、折角様々な業界より参加頂いていますので業界、業種、商品を研究するという観点からでも構わないので好奇心をもって積極的に話を聞きに行ってくださいと思います。参加頂いた企業



は、短大生が多数参加したことを高く評価して頂き、その後企業が独自に行う会社説明会へ多くの大学生、短大生が参加しており就職に対する本学学生の熱意の高さに企業よりお礼の電話を頂いています。同時に、企業に関して分からないことがあれば、どんなことでも質問してもらえれば丁寧の説明します。それが学生の皆さんの視野が広がり、就職、企業を新たな観点から考える手助けになれば嬉しいとの言葉も頂いています。本年参加頂いた企業より、来年度も参加しますとの話が既にきており、本学学生への評価を高く頂いています。

し、売り手市場の方向に進んだことで学生側に余裕が出ていることも否めません。参加企業その他のアンケートを紹介すると、「しっかりと話を聞いていて、とても良かった」、「業界研究の要望があれば説明に参上します」から、「二つくらいの企業説明があると良い」、「二階にもっと学生が上がる工夫がほしい」など貴重な意見も頂戴しています。人気のある企業に学生が集まる傾向が見られたのですが、折角様々な業界より参加頂いていますので業界、業種、商品を研究するという観点からでも構わないので好奇心をもって積極的に話を聞きに行ってくださいと思います。参加頂いた企業

は、短大生が多数参加したことを高く評価して頂き、その後企業が独自に行う会社説明会へ多くの大学生、短大生が参加しており就職に対する本学学生の熱意の高さに企業よりお礼の電話を頂いています。同時に、企業に関して分からないことがあれば、どんなことでも質問してもらえれば丁寧の説明します。それが学生の皆さんの視野が広がり、就職、企業を新たな観点から考える手助けになれば嬉しいとの言葉も頂いています。本年参加頂いた企業より、来年度も参加しますとの話が既にきており、本学学生への評価を高く頂いています。

は、短大生が多数参加したことを高く評価して頂き、その後企業が独自に行う会社説明会へ多くの大学生、短大生が参加しており就職に対する本学学生の熱意の高さに企業よりお礼の電話を頂いています。同時に、企業に関して分からないことがあれば、どんなことでも質問してもらえれば丁寧の説明します。それが学生の皆さんの視野が広がり、就職、企業を新たな観点から考える手助けになれば嬉しいとの言葉も頂いています。本年参加頂いた企業より、来年度も参加しますとの話が既にきており、本学学生への評価を高く頂いています。

は、短大生が多数参加したことを高く評価して頂き、その後企業が独自に行う会社説明会へ多くの大学生、短大生が参加しており就職に対する本学学生の熱意の高さに企業よりお礼の電話を頂いています。同時に、企業に関して分からないことがあれば、どんなことでも質問してもらえれば丁寧の説明します。それが学生の皆さんの視野が広がり、就職、企業を新たな観点から考える手助けになれば嬉しいとの言葉も頂いています。本年参加頂いた企業より、来年度も参加しますとの話が既にきており、本学学生への評価を高く頂いています。

本学で開催 第14回千葉県教務事務 担当者連絡会

現在、全国の大学生の数は、約二百五十万人になる(平成十八年度文部科学省学校基本調査より)。このうち、千葉県内の学部学生数は、約十万八千人となっており、千葉県の学部学生数は、全国の約四・三%に過ぎない。しかし、都道府県別に見ると九番目に学生数が多い都道府県となっている。



約二百五十万人になる(平成十八年度文部科学省学校基本調査より)。このうち、千葉県内の学部学生数は、約十万八千人となっており、千葉県の学部学生数は、全国の約四・三%に過ぎない。しかし、都道府県別に見ると九番目に学生数が多い都道府県となっている。

キャリアセンター 発足から半年が 経ちました

平成十八年十月にキャリアセンターが発足(旧就職課が名称変更)、新たな組織・体制として活動を開始しました。学生への支援を充実させるために、大学・短大(ビジネスライフ学科)の一般就職機能が統合して大学一号館一階に設置されました。キャリアセンターには職員五名が常駐する体制でスタートしました。最初にキャリアセンターが

心掛けたことは、入室しやすい雰囲気を作る、利用しやすい室内レイアウトにする、学生とのコミュニケーションを円滑にする、就職に関する求人情報を迅速に提供すること、学生からの相談はどんなことでも丁寧に対応する、主体は学生でキャリアセンター職員は支援に専念する、学生が卒業後に自分で歩いていけるような支援を行う、などです。部屋のレイアウトは、学生一人一人と十分に話し合いができるように対面机を置き、向かい合って相談を行う配置を採用することで、今まで以上に学生へきめ細かな相談を行っています。就職についての相談も十分に時間をかけて話し合いを行い、学生の悩

みを正確に把握してその時点で最適な支援を行えるように心掛けています。

キャリアセンターが関わる就職支援プログラムは、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「会社の基礎知識」、「インターンシップⅠ・Ⅱ」、「千葉の経済」の授業と、無料の「キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「就職ガイダンス」、「就職模範試験」、「マナー講座」、「自己分析講座」、「履歴書対策講座」、「資格取得支援講座Ⅰ(販売士)・Ⅱ(簿記)」などの他に、有料の「民間企業就職試験対策講座」、「公務員試験対策講座」があります。これらのプログラムは、学生が就職試験に臨んだ時に、役に立つ内容を

学がより実のある教育研究が行えるようにしていくことは重要なことである。そのような趣旨に基づき、千葉県内大学の教務関係に携わる人々を対象とした「千葉県教務事務担当者連絡会」という組織がある。平成十四年度からこの会は発足し、十九年度で六年目を迎える。この千葉県教務事務担当者連絡会は、現在、十校が幹事校として運営に携わり、本学もその幹事校のひとつとなっている。この会の主な活動は、年二回行われる連絡会と年一回の合宿研修から構成される。連絡会は、主として六月と十一月頃に行われ、去る十一月三十日に本学を会場として第十四回千葉県教務事務担当者連絡会が開催された。

当日は、県内二十二大学・短期大学四十八名の出席があった。四十八名を五班のグループに分け、それぞれが事前に定めたテーマに基づき、五階の演習室でグループディスカッションを行い、その後は、学生ホールで懇親会を行った。大学に勤めていても他大学のキャンパスに足を運ぶことはそれほど多くない。今回、本学に來校された他大学の方々も本学キャンパスに初めて足を運んだと



修を勧めます。

最後に、今後の取り組むべき課題は、まだキャリアセンターを訪れていない学生に一度来て頂くことです。一度、訪問して相談を受けた学生はキャリアセンターの存在価値を認めてもらえたようであり、ピーターとなっています。また、就職活動に直面する三〜四年次生だけでなく、入学したばかりの一年次生と二年次生に來室して頂くことです。数名の一〜二年次生が來室して資料などを閲覧していきましたが九十五%以上の一〜二年次生が利用していません。キャリアセンターの職員は低学年の学生の相談も喜んで受けますので來室を心待ちにしています。

父母の会安全報

父母の会では、学生が快適なキャンパスライフを過ごせるために、大学の施設及び設備を充実させるための様々な支援、クラブ・同好会に対しての援助、また学校行事、各種の講習会やガイダンスに関する資金の提供など様々な補助(支援)を行っています。

最終的な決算のご報告は、五月



の総会にてご報告・承認をいただき、次号の大学新聞に掲載する予定です。ここにその概要をお知らせいたします。

また、先に述べましたとおり、五月中旬の土曜日には父母の会総会が行われます。この総会は、①平成十八年度決算・平成十九年度予算②平成十九年度役員改選③十九年度年間行事予定などについて審議し、ご承認をいただく予定であります。なお、総会に先立ち父母とゼミ担当教員との個別面談も実施されます。この個別面談はその学生の成績も含め、普段学生が大学内でどのように生活しているか、直接指導をしているゼミ担当教員から色々な話を聞くことのできる貴重な機会だと思われ



ます。

さらに、個別面談・定期総会終了後には、学生ホールにて懇親会も開かれます。懇親会にはゼミ担当教員も参加しますので、個別面談では時間が足りず、もう少し細かい話を聞きたいと思われる父母の方々には、大学の事情や担当教員の人となりも知ることが出来ると非常に好評をいただいております。

この個別面談・定期総会・懇親会についてのご案内は改めて差し上げます。お子様がどのような環境で学生生活を過ごしているのか理解される一助となることもございますので、お時間の許す限りご参加いただきますようお願いいたします。

平成18年度 父母の会支出概要(項目別)

項目	金額(千円)	備考
個別面談・地域懇親会	611	
安全運転講習会	116	
オリエンテーションキャンプ	160	
スポーツ大会	294	
トレーニングルーム講習会	25	
大 学 祭	300	
クリスマスパーティー	50	
クラブ貸出用ワゴン車諸経費	3,081	リース料、保険料
クラブ活動助成金	2,309	
課外活動団体奨励金	160	
就職模擬験等	1,469	
就職情報交換会	1,246	
学内会社説明会	1,035	
父母向け学生ハンドブック印刷代	347	
各種郵送代	489	
卒業式謝恩会	1,000	
附属高校甲子園出場寄付	2,000	2006夏、2007春

同窓会安全報

「同窓会会報」では、長年にわたり、本学で教鞭をとられ、平成十九年三月に退職された二名の先生から本学での思い出をいただきました。

老教授の卒業の辞

千葉経済大学名誉教授(平成十九年三月退職)

宇佐美 良雄



私も定年を迎え、二〇〇六年度の卒業生諸君と一緒に、この春に千葉経済大学を卒業した。大学創立三年目の一九九一年の春に本学に赴任してきたので、この春で十六年間の長きにわたって、学部学生や大学院学生の諸君と一緒に勉強してきたことになる。

若い学生諸君から沢山のエネルギーを頂き、一緒に勉強できたお陰で、今日まで文字通りの浅学非才の身に教壇に立つことが出来たことを、何よりの幸せと心から感謝している。学部学生、大学院学生、また、それぞれのOBの諸兄弟姉妹に対して、先ず心から厚く御礼を申し上げたい。また、体調が不十分だったために、自分が望んでいた程には十分に指導が出来なかつた事に対して、更めて諸兄弟姉妹に対しお詫びを申し上げる次第である。

赴任直後から、直ぐに大学院の開設の方針が打ち出され、準備委員会が設けられて、柴田啓次元教授が委員長、私が副委員長となつて、約一年間で大学院の開設に漕ぎ着けたことは、懐かしい思い出である。本学の大学院は、元来は前理事長の方針で地方公務員の再

さらには就職の指導をも受けることよって、一対一、または一対多の形で、人格と人格の触れ合いができることが、学生諸君にとっての教育効果には極めて大きいものがあると思う。この「少人数制必修ゼミ」の制度は、本学の根幹をなす制度だと考えるので、今後ともこの制度を大切に頂くことを、教職員の方々と学生諸君に是非ともお願いをしておきたい。

内村鑑三の言葉に、「師たるを知って、友たるを知らざる者は、師たるの資格は無い。」との名言があるが、私は、この言葉をいつも心に刻んできた積りである。教壇から教える間はあくまでも教師であるが、一旦教壇を降りれば、友人として視線を同じくして学生諸君に接することが一番大切であると考えてきた。十四年間の私の過去の演習の学生名簿の頁を繰りながら眺めていると、その時々、学生諸君のそれぞれの顔と声が走馬灯のように頭を駆け巡り、いろいろな思い出が懐かしく甦ってくる。彼は今どうしているだろうか、彼女は今どうしているだろうか、是非とも知りたいし、訪ねて行って話してみたい気持ちで一杯になっているので、私の名前で検索を下さって、私の演習のOBである諸兄弟姉妹から近況報告のメールを頂ければ、非常に有難く、嬉しく思う。

現在では、税理士のOBの集りだけでも、既に五十人余を数えている。千葉県下の税理士グループとしてはかなり有力な、非常に結束力のある団体に育ってきていることは本心に嬉しいことで、今後はさらに大学の大きな財産に育って行くことと確信している。これには、それぞれの担当教授の特別なご尽力が大きかったことは勿論のことだが、院生OB側のご努力にも大変大きなものがあつたと思ふと、洵に感謝に堪えない次第である。

千葉経済大学 定年退職に当たって

千葉経済大学名誉教授(平成十九年三月退職)

桜井 明治

私は大学の教員生活四十五年、愛知学院大学、中国の大学大学院、長崎県立大学、千葉経済大学と経ました。千葉経済大学は創立以来で十九年になります。私にとって一番印象に深いのは千葉経済大学です。それは、千葉経済大学と千葉経済大学の学生に深く感謝しているからです。

日本の大学の外国語教育、殊に未履修外国語の教育は、総じて大きな問題を持っており、多くが外国語をマスターする為に必要とされる三つの能力、会話・読解・作文の内でも多くが読解しか教えないのです。特に二十年前、三十年前には、未履修外国語に対する社会的需要が極めて低く、教員がマスターさせても使い道がなかったのです。教員は文法と読解の基礎を教えればそれでよかったのです。骨の折れるネイティブに通じる為の発音教授や会話のマスターなどの責任は負いません。私の中国語教育もその例外ではありませんでした。当時私は自分の研究に興味と遣り甲斐を感じこれに没頭していたので精力の九割が研究に注がれ、教育は残りの一割でした。

しかし一九八〇年代に中国の市場経済の急速な発展の影響で日本社会の中国語に対する需要が増した為か、殊に十九年前に千葉経済大学に就任した頃には、四十人のクラスで四・五人は中国語をマスターしたいという意欲を持って積極的に受講している学生が目に入るようになりました。こうなると、今度はなんとかしてこの学生たちに中国語をマスターさせてあげたい、できれば将来中国語を使っていた仕事に就かせたい、更に授として頑張るつもりです。

多くの学生が私の教授法を信じて自分の可能性の開花に向けて積極的に何度も録音を聞いて立派に授業の予習復習をやるようになり、検定で毎年三級合格者が出て二級や準一級合格者も出ました。私は放課後よく「千葉経済大学の学生は立派だ。」と言ってきました。

中国研修では、中国に立つ前に私は中国の大学の担当講師と授業の打ち合わせをファックスと電話で行い、現地での授業中は各クラスを聴講し、放課後各講師と次回の授業の為の検討をしていました。それを見ていた学生たちが、それに応えようと多くが一生の内でも一番勉強した三週間と言ってける程勉強し、卒業式に現地の大学の先生や学生の前で行う中国語の五分間スピーチでは、多くの学生が原稿を見ずに全部暗記して立派にやり、出席者全員の大喝采を受け、「千葉経済大学の学生は優秀だ」と言う喚声には感激の余り大声を出して泣き出した場面もありました。

就任後十九年間、私の厳しい授業に立派に耐え、却って感謝してくれている多くの現役の学生や卒業生、またこうした場を与えてくれた千葉経済大学に心から感謝します。本当に有難う御座いました。

なお、四月から中国大学大学院で同時通訳者の養成の仕事に就きますが、私は千葉経済大学名誉教授として頑張るつもりです。

終わりに臨んで、千葉経済大学の今後の益々のご発展を心から祈念して、老教授卒業の拙い感謝の辞とさせていただきます。同僚の教員諸兄弟、職員諸兄弟、学部学生諸兄弟、大学院学生諸兄弟、OB諸兄弟の皆さん、本心に御世話になりました。長年にわたる御友情に対して厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも渾らざるご厚意の程をお願い申し上げます。

図書館講演会(5年間)

達人たちとの出会いを振り返って

平成十四年度に本学図書館の地域開放を記念して始まった図書館講演会も平成十八年度で五回を数えることになりました。市民の方と学内関係者で毎回百名を超える参加者があります。

講演者は作家、翻訳家、保育士の方々(別表)です。講師はいずれも図書館と深い付き合いをされている方でそれぞれの専門分野の体験に基づく図書館の活用、創作と本との関係などについてお話しくださいました。講演の後には質疑応答もあり講師と参加者の交流も図ることができました。



図書館講演会
「図書館であそぼう」
講演者 佐藤 洋二氏



講演後のアンケートでは様々な感想や意見が寄せられています。その一部を以下に紹介いたします。

「具体的な事例によって資料との出会いや発見に喜びを感じた」「楽しいひと時を過ごせました」「何が本に大切なのかを考へる機会になりました」「自分が知らなかったことの多さに驚きました」

こうした感想を目にすると、巧みな話術で独自の世界へ引き込み、笑わせたり驚かせたりしながら新しい発見へと繋げる講師の熱意を強く感じます。講演によって、参加者はいわば脳の「洗濯」をしているようです。

了されました。菊地氏の講演はお父さんお母さんたちへの子育て支援の意味もこめて実施され、「手遊び」を参加者と一緒に行うなど会場が一体となりました。辻氏の講演は翻訳という身近ではあるがあまり知られない世界をメールアドレスなど新しい図書館サービスの動向を交えて興味深く話されました。

一流の人、仕事と人生の達人との出会いは私たちが日頃忘れてかけて心の奥にしまいいこんだ色々な「思い」を言葉やパフォーマンスの力で浮かびあがらせてくれるようです。会場を後にする参加者の表情にリフレッシュされた満足感があふれているのを毎回感じています。

年度	講師	演題
H.14	加藤 幸子氏 (作家)	青年期をどう生きたか ～一冊の本との出会い～
H.15	佐藤 洋二氏 (作家)	私の文学背景 ～苛酷な人生を生きる者 たちに寄せる深い愛のまなざし～
H.16	長谷川 撰子氏 (児童文学者)	子どもたちと絵本
H.17	菊地 政隆氏 (保育士)	子育てと本
H.18	辻 由美氏 (翻訳家・作家)	図書館で遊ぼう

経営戦略の基礎から応用へ



坂本ゼミ(経営戦略論演習)
経営学科 四年 村井 光

週担当者が要約してレジュメを作成し、それをゼミの仲間の前で発表します。そしてみんなでその中から問題や議題を出し合いそれについて議論を行っています。この際みんなの前で自分の作成レジュメを発表し、みんなで討論することは誰でも出来るものではありません。私たちが坂本ゼミに在る理由が、レジュメの作り方や議論のしかたなどの基礎的な発表力やディスカッション能力を伸ばすと共に、三年間を通じて経営戦略の基礎的な知識を歴史を追って学んできました。

そして三年次には経営戦略の文献の輪読と並行して、興味のある分野の企業三社(同業種)を四人ほどのグループに別れ、その企業の経営戦略について研究や比較を行って発表するグループワークも行いました。これから就職活動を行う上で、就職活動前に興味のある業界について深く知ることが詳しく調べられる機会にも繋がるので、とても貴重な経験になりました。就職活動を行う前にこのいった経験を通過してみんなで企業について学んでいくのは是非、私たちが行ってみたいと思います。

以上が坂本ゼミ(経営戦略論演習)の紹介となります。どのゼミにするか迷っている方は是非、私たちが行ってみたいゼミへ気軽に見学に来てみてください。

学芸員課程調査 実習に参加して

(3年間の軌跡をたどり)
平成19年3月経済学科卒業 関 明祥

私は、学芸員課程で毎年夏休みに実施される調査実習を三年間にわたり行なってきました。一年目の実習(日十六・九六・九八)では民俗班に加わり海女について聞き書きや道具を採集する調査を行いました。初めて行なう作業に少し戸惑いはありましたが、午後には御宿町の様々な人に話を聞くことができました。海女さんが海に潜って海藻を採集するときのワ



カメ鎌を大学の資料として頂いたり、中々の成果をあげられました。御宿町の人々はとても親切で暖かい方々でした。知らない人から話を聞く機会は滅多になくとても良い勉強になりました。最初は緊張していましたが、話し手も真剣に話して下さるので、聞き手の私達も質問などをして会話の流れなど勉強になることは多々ありました。コミュニケーション力がつく良いトレーニングでした。将来営業職に就く時や、職場での対話に役立つと思いました。

三年目の実習(日十八・九・四・九・六)では、大原町坂水寺の墓碑を調査しました。

今回、調査した墓碑は観音堂の北側に安置してあった無縁仏です。まだ、調査ができていない墓碑は多くありますが、昨年の調査であらかじめ草木を撤去した調査しやすい三十二基を調査する事ができました。土砂や草木が取り除かれていたので、とても作業しやすかったです。

調査方法は、墓碑に番号をつけた大きさを彫ってある文字など個々の情報を調査カードに記入し作成した後、露出計を使い一眼レフのカメラで本格的な写真を撮影し、資料の一部を採掘する作業を二日間行ない、最終日に資料の簡単な整理をしました。拓本の紙が足りなかったため調査した全ての資料の拓本がとれなかったのが残念でした。

調査結果は、江戸時代から明治時代にかけての墓碑が多く、特に享保という時代が多いことに気が付きました。年代によって墓碑の形態も異なりその時々で形式も様々でした。現代にある墓にどのようか比較し同じ所、異なる所もわかりました。

今回石造物調査において勉強になる事は多くありました。初めて扱う一眼レフカメラの取り扱い方や、拓本も実際野外で行うのと屋内で行うのとでは全く違い良い経験になりました。

カメラでは、露出計を使い、絞りやシャッタースピードを調整し、普段行っていないアナログな撮影ができて楽しかったです。時問があるときにはこういう撮影も良いと思えました。出来上がった写真はとても素晴しかったです。

拓本では、日の光が強く暑かったので水で濡らせた画仙紙がすぐに乾いてしまうので、正確にかつ素早く作業を行なう事が必須でした。数をこなしていくにつれ少しずつではあるが上手になった気がします。菩薩や如来など立体物の採掘が最も難しかったです。

これらは私たちにとても良い経験になったと思います。この体験を通じ今後の学生生活、就職などに役立てていきたいと思っています。



学芸員課程調査実習の様子

ゼミ紹介

日商二級の取得と コミュニケーション 能力訓練

小野ゼミ(財務会計演習)
経営学科 三年 鎌野 寛也
経営学科 三年 茂手木 隼人

私達が所属する財務会計演習は、会計情報を利用できるようになる事を目的とした演習です。その前段階として、日商簿記検定二級の取得が最初の目標となります。すでに取得している人は、その知識を利用して会計情報を読み取る訓練を行います。簿記が初めての人にはいきなり二級を目指すのは少々抵抗があると思いますが、初めての人はまず三級から挑戦します。基礎である三級の内容をある程度理解していなければ応用のある二級はより難しくなってしまいます。学習の内容としては、三級、二級、会計の論理を学習する三クラスに分かれます。ここでは主に三級、二級の学習方法について紹介します。クラス毎に分かれたら、始めに全員が同じ簿記の問題集を用意

して、それを順に解いていく形式になります。先生があらかじめ問題の範囲を指定し、各自その問題を解きます。ゼミの時間に解くのではなく、週に一度あるゼミの時間までに一通り問題を解きます。そして、問題を解く過程で自分が意味の分からない言葉や専門用語、解き方など「何故そうなるのか?」と疑問に思ったところがある場合はゼミの時間の中で質問し、他の学生が相手に分かるように答えて理解を深めます。この「相手に分かるように答える」ことにより、簿記の勉強だけでなく相手に自分の意見を伝えるコミュニケーション能力を訓練するのです。また、学生全員が分からなかった場合や説明不足の時は、先生に助言してもらいます。その助言の中には、回答のポイントだけでなく社会の常識や豆知識も紹介して下さるので、「なるほど!」と感心しながらさまざまな知識を蓄えることができます。会計の論理のクラスでは、財務諸表の利用に関する著書を題材に、社会に出て必要になる文章作成の方法や先に述べたコミュニケーション能力を重点的に訓練します。検定日が近づくと

業について調べるのは、いろんな観点から企業を調べる事が出来たのでとても参考になる事ばかりでした。坂本ゼミではこの他にも、私達が企画したスポーツ大会を行った事もあります。今までのような事を行ったゼミは全然無いのですが、坂本先生が積極的にいろいろ協力してくださり、体育館を借りてフットサルとバスケットをゼミの仲間達でやる事ができました。

このようにみんなでスポーツをやる機会を通じて、ゼミの仲間や坂本先生との輪がより一層深めることができました。このスポーツ大会は、大学生活において大切な仲間作りの場となりました。

まだ私達にも慣れない所もたくさんありますが、坂本先生のサポートの下で経営戦略について深く、そして楽しく学んでいるゼミなので、私にとってはここで得られるものは数え切れないほど多くあり、そして将来へ繋げられる大きな財産になると思います。

ゼミ活動の様子

